

## インフルエンザ定点当たり報告数

インフルエンザは定点把握対象疾患であり、医療機関の中から選定し、協力していただいている定点医療機関からのみ患者数が報告 3 ならば、1 つの医療機関で 1 週間に 3 人のインフルエンザ患者を診療した、ということになります。

この数字が 1 以上であれば、その地域は流行レベルに入ったことになり、10 以上なら注意報レベル、30 以上なら警報レベルの流行となります。警報が解除されるのはこの数字が「10」を切ってからです。

○2019-2020 シーズンの全国の定点報告（国立感染症研究所調査）：

2019 年第 38 週（9/16-9/22）の定点当たり報告数が 1.16 となり、全国的な流行開始の指標である 1.00 を超えました。

2018 年は、第 49 週で定点当たり報告数が 1 を超えており、2019 年が例年より早く 1 を超えたことから、国立感染症研究所による報告が 38 週から開始されました。39 週以降 1 未満となり、42 週で 0.72 まで低下しましたが、43 週（10/21-10/27）0.8、44 週（10/28-11/3）0.95 と再度上昇してありました。45 週で流行開始の指標である 1.00 を上回りました。今シーズンは、50 週から 5 週（1/27-2/2）まで注意報レベル（10 以上）の流行でした。

2020 年第 6 週の定点当たり報告数は 9.04（患者報告数 44,737）となり、前週の定点当たり報告数 14.11 より減少しました。5 週までで注意報レベル（10 以上）の流行が終わりました。

都道府県別では北海道（12.92）、**沖縄県**（12.67）、群馬県（11.78）、愛媛県（11.77）、**長崎県**（11.63）、大阪府（11.38）、愛知県（11.33）、岡山県（11.21）、長野県（11.20）、岩手県（11.08）、新潟県（10.86）、高知県（10.81）、兵庫県（10.70）、千葉県（10.54）、福井県（10.43）、滋賀県（10.42）、**宮崎県**（10.41）、**鹿児島県**（10.11）の順となっていました。

国内のインフルエンザウイルスの検出状況を見ると、直近の5週間(2020年第2週～2020年第6週)ではAH1pdm09(89%)、B型(9%)、AH3亜型(2%)の順となっています。

詳細は国立感染症研究所ホームページ

(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-map.html>)をご参照ください。

○2019-2020シーズン 長崎市、長崎県の定点報告状況(長崎県感染症情報センター報告より) :

2020年第6週(2/3-2/9)のインフルエンザ報告は、長崎市(12)、長崎県(11.63)で、第5週(1/27-2/2)長崎市(19.18)、長崎県(19)と比較すると、長崎市、長崎県ともに減少しました。

いずれも流行レベルの指標1を超えておりました。50週以降の報告数が10以上(注意報レベルの流行)となっています。

長崎市は、40週、41週、42週と流行レベル(1以上)となりましたが、41週をピークに減少し、43週では1未満となりました。しかしながら、44週では、0.94と再度増加し、45週で1を超えました。

◎長崎県は、39週以降1未満となりましたが、長崎市が40-42週で1を超え、流行レベルとなりました。43週で1未満となりましたが、45週で1を超えました。さらに、50週以降で報告数が10以上(注意報レベルの流行)となりました。今後も注意が必要な状況が続いています。

(長崎県感染症情報センターHPより抜粋、1部改変)

インフルエンザ等の感染予防のために、十分な休息、手洗い、うがい、マスクの着用等を心掛けてください。インフルエンザが疑われる症状として、のどの痛みや鼻汁・鼻づまり、発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛、全身のだるさ等がみられましたら、早めに医療機関を受診してください。